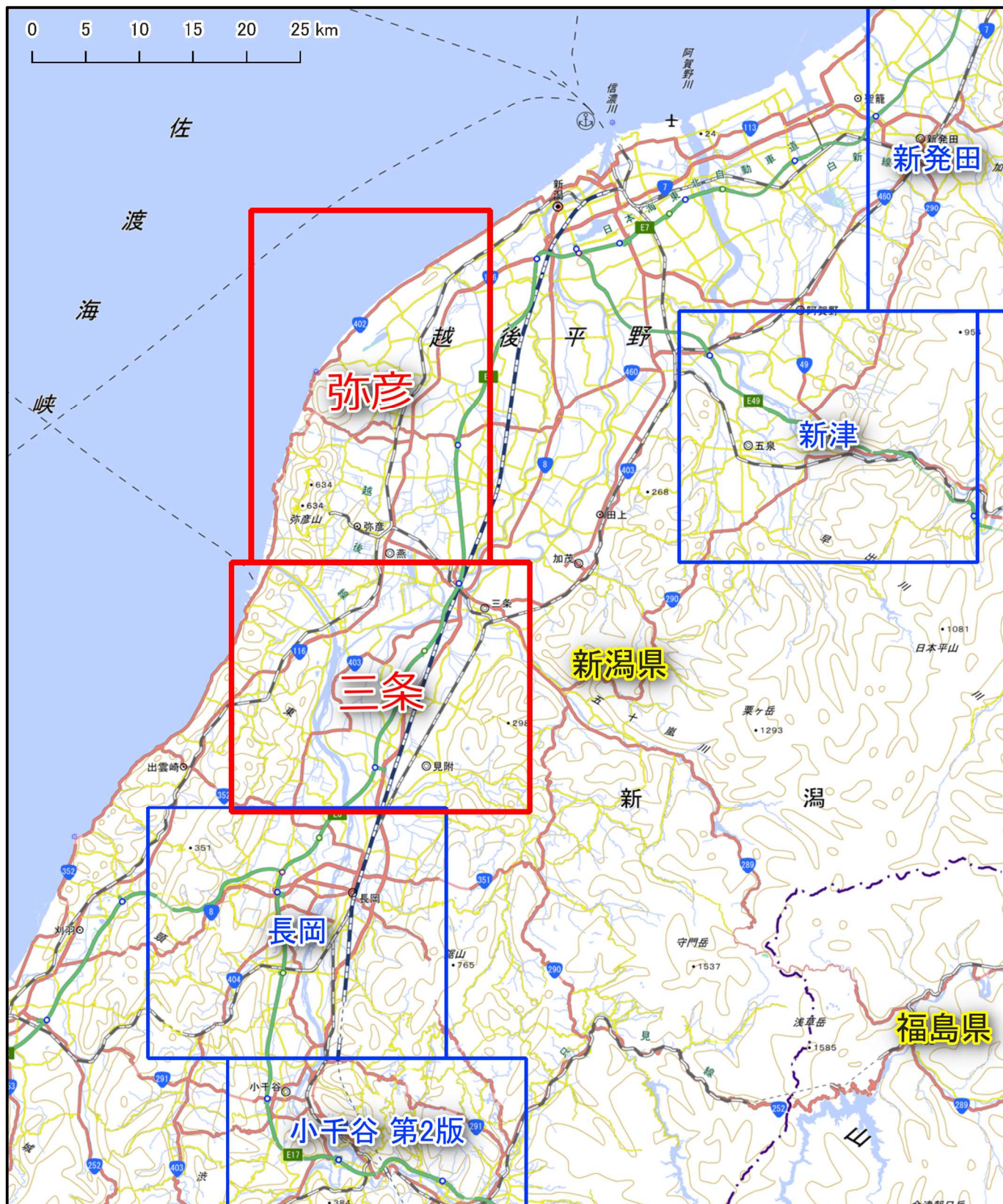


1:25,000 活断層図 長岡平野西縁断層帯とその周辺 「弥彦」 「三条」



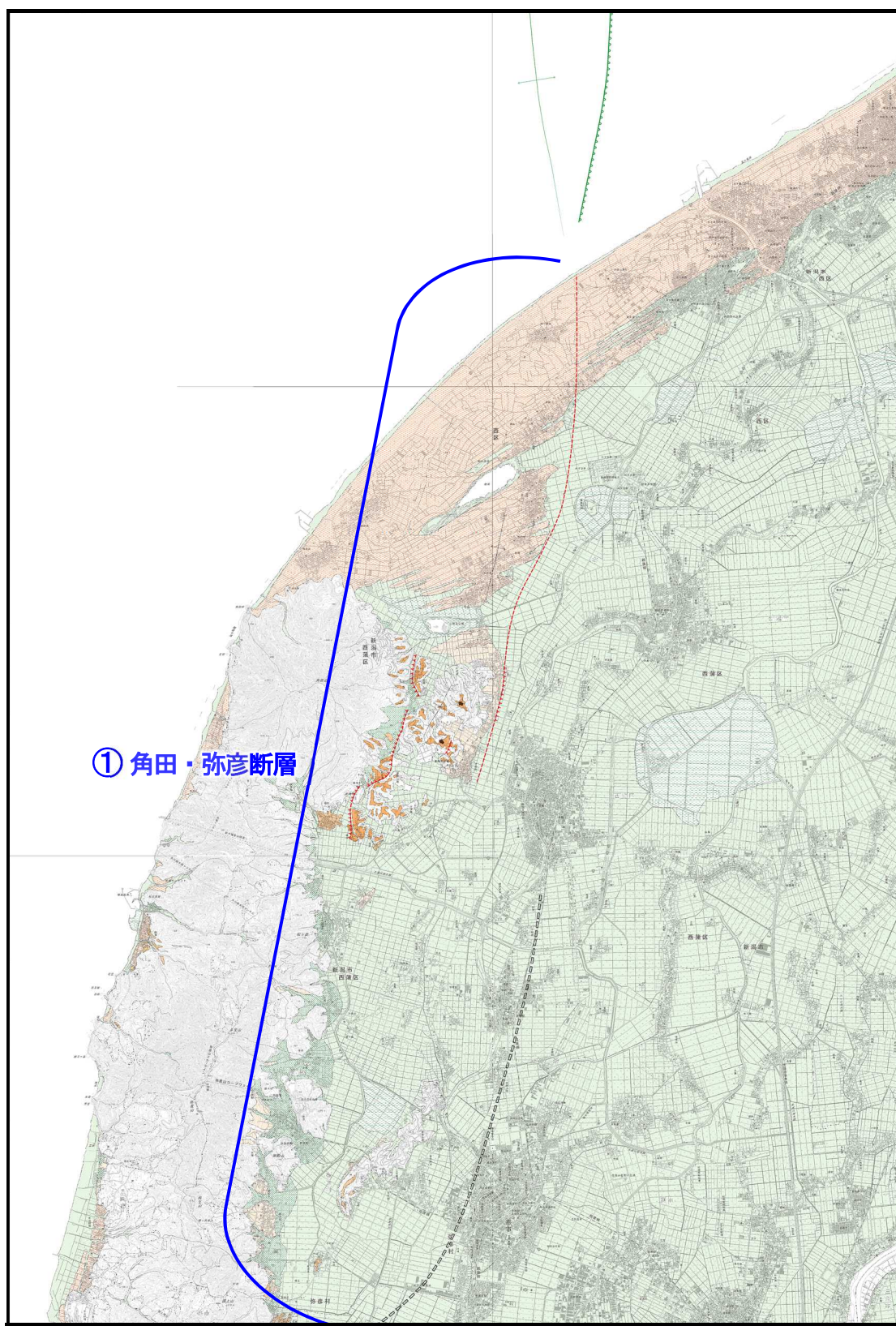
公開図郭



整備済図郭

概要

1. 1:25,000 活断層図 「弥彦」



2. 今回の調査で得られたこと

「^{やひこ}弥彦」図葉には、^{かくだ}角田・^{やひこ}弥彦断層約 21km を表示しています。

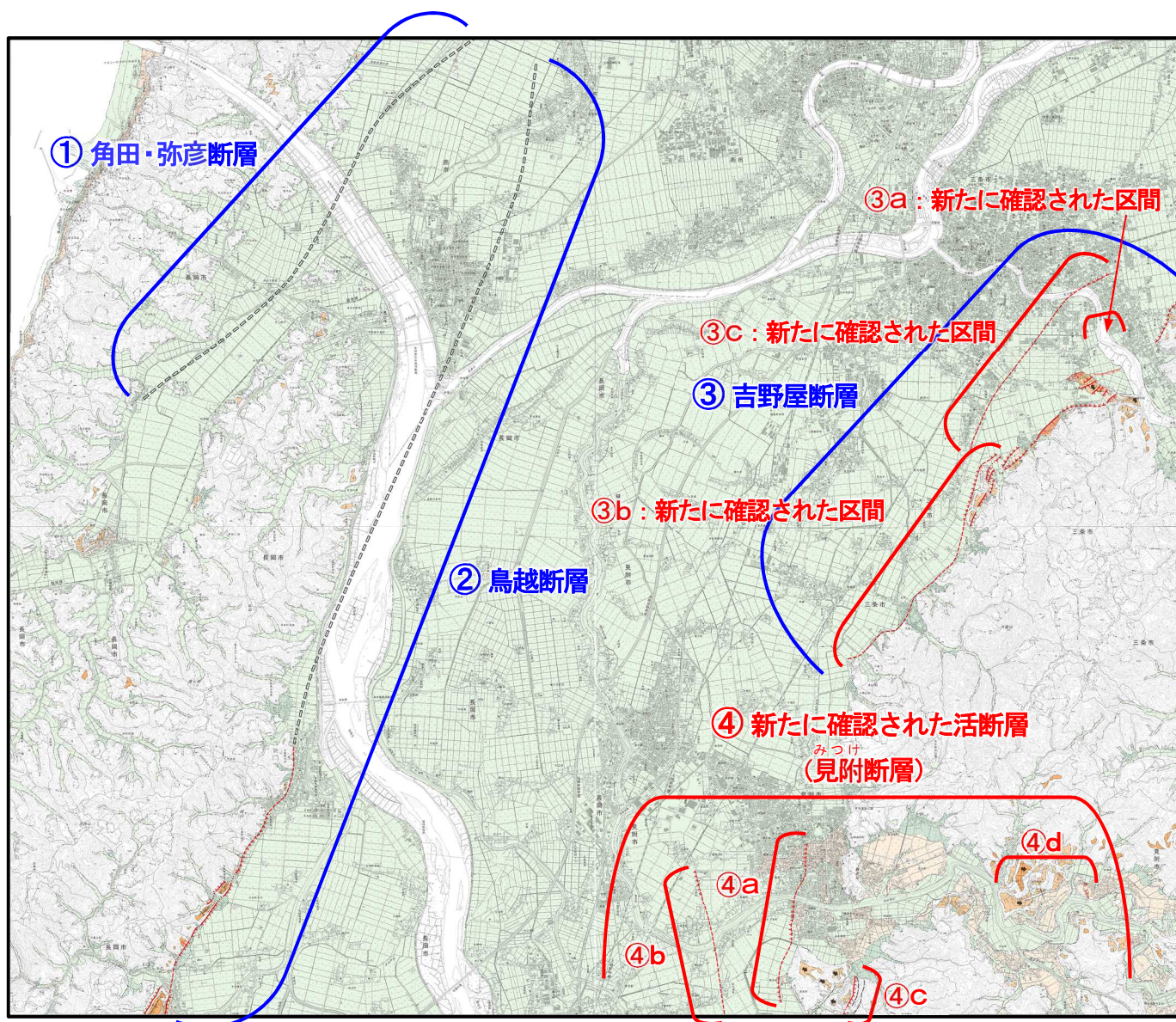
表示した活断層は、以下のとおりです。

番号	断層名	断層について
①	かくだ やひこ 角田・弥彦断層	新潟市西区内野上^{うちのかみしんまち}新町付近から西蒲原郡弥彦村^{にしかんばら}大戸^{おおど}の南西（図郭南端）まで、北北東－南南西方向に延びる、図葉内の長さ約 21km の活断層です。 新潟市西区内野上^{うちのかみしんまち}新町付近から西蒲区^{にしかん}竹野町^{たけのまち}までの長さ約 10km の区間は活断層（位置やや不明確）となっており、西蒲区^{にしかん}仁箇^{にか}付近では、相対的に西側隆起（東側落ち）の縦ずれ*変位を伴っています。 新潟市西蒲区^{あじり}安尻から弥彦村大戸の南西（図郭南端）までは、北北東－南南西方向に延びる、図葉内の長さ約 9km の推定活断層（地下）となっています。 また、新潟市西蒲区^{とうじま}稲島から弥彦村^{みねおか}峰岡にかけての区間は、角田山^{かくだやま}東麓に分布する段丘面に沿って、相対的に東側隆起（西側落ち）の縦ずれ*変位を伴う北北東－南南西方向に延びる、長さ約 4km の活断層（位置やや不明確）が分布しています。

*印は、参考資料 2 の「7. 用語の説明」を参照

概要

1. 1:25,000 活断層図 「三条」



2. 今回の調査で得られたこと

「^{さんじょう}三 条」図葉には、^{かくだ やひこ}角田・弥彦断層約 9km、^{とりごえ}鳥越断層約 19km、^{よしのや}吉野屋断層約 9km と、新たに確認された活断層
(^{みつけ}見附断層) 約 4km を表示しています。

表示した活断層は、以下のとおりです。

番号	断層名	断層について
①	かくだ やひこ 角田・弥彦断層 (図葉内は推定)	北側に隣接する「弥彦」図葉から連続し、本図葉においては燕市源八新田から長岡市寺泊夏戸付近まで、北東－南西方向に延びる、図葉内の長さ約9kmの推定活断層（地下）です。
②	とりごえ 鳥越断層	燕市佐善付近から長岡市脇野町（図郭南端）まで、北北東－南南西方向に延びる、図葉内の長さ約19kmの活断層です。 燕市佐善付近から長岡市与板町与板までの区間は推定活断層（地下）となっており、それより南側では相対的に西側隆起（東側落ち）の縦ずれ※変位を主体とし、長岡市与板町榎原と同市脇野町付近では主断層の西側に、活褶曲※（背斜）を挟んで南東側隆起（北西側落ち）の縦ずれ※変位を伴う短い副次断層が見られます。
③	よしのや 吉野屋断層	三条市東大崎（図郭東端）から見附市小栗山町付近まで、北東－南西方向に延びる、図葉内の長さ約9kmの数条からなる活断層です。 三条市東大崎付近及び五十嵐川を挟んで同市月岡から吉野屋付近までの間は、山地と沖積低地の境界に沿って相対的に南東側隆起（北西側落ち）の縦ずれ※変位を示す活断層が主に見られ、一部に活撓曲※を伴っています。また、三条市月岡及び同市長嶺付近では、段丘面上に数条の主断層と逆向きの北西側上がりの縦ずれ※変位が確認できます。 三条市吉野屋から南西の見附市小栗山町付近までは、活断層（位置やや不明確）が延びています。 今回の調査で、<u>三条市月岡の撓曲変形の東方延長に当たる五十嵐川左岸の扇状地性の沖積低地地面上に新たに活撓曲※が確認されました（図中③a）。</u> <u>また、三条市長嶺付近から見附市小栗山町付近までの平野と丘陵の境の山麓線に長さ約5kmの東上がりの活断層（位置やや不明確）（図中③b）と、三条市三竹から同市金子新田付近まで沖積低地の中を北東－南西方向に延びる、長さ約4kmの活断層（位置やや不明確）（図中③c）が新たに確認されました。</u>

④	新たに確認された 活断層 みつけ (見附断層)	今回の調査で新たに確認された、図葉内の長さ約 4km の活断層で、見附市街地付近に位置することから見附断層と命名しました。 見附市街地付近の山麓線沿いには、沖積低地及び下位段丘面上に、ほぼ南北方向に延びる、長さそれぞれ約 3km の 2 条の活断層（図中④ a、④ b）が確認されました。 ④ a 区間は、見附市^{しんまち}新町から同市^{みみとりまち}耳取町付近までの延長約 3km の活断層（位置やや不明確）です。見附市新町付近、同市^{あつたまち}熱田町付近及び同市^{とやわきまち}鳥屋脇町付近では、東上がりの縦ずれ*変位が確認できます。 ④ b 区間は、見附市^{きたのまち}北野町付近から長岡市^{よつやまち}四ツ屋町付近（図郭南端）までの沖積低地上に見られる延長約 3km の活断層（位置やや不明確）です。 また、図中④ c 区間では、見附市耳取町付近の丘陵地において、東上がりの逆断層である見附断層の副次的な断層と考えられる西上がり（東側落ち）で、④ a、④ b とは逆向きの縦ずれ*変位と、それに伴う活褶曲*（向斜）が見られます。 図中④ d 区間では、長岡平野東縁の山麓線から刈谷田川沿いに東へ 6km ほど遡った付近の丘陵中に、見附断層上盤側での変位と考えられる長さ 1km 未満の東上がりの活撓曲*や活褶曲*（背斜）が確認されました。
---	---	--

*印は、参考資料 2 の「7. 用語の説明」を参照